

第2節 地中レーダー探査から想定される浅間古墳の埋葬施設

はじめに

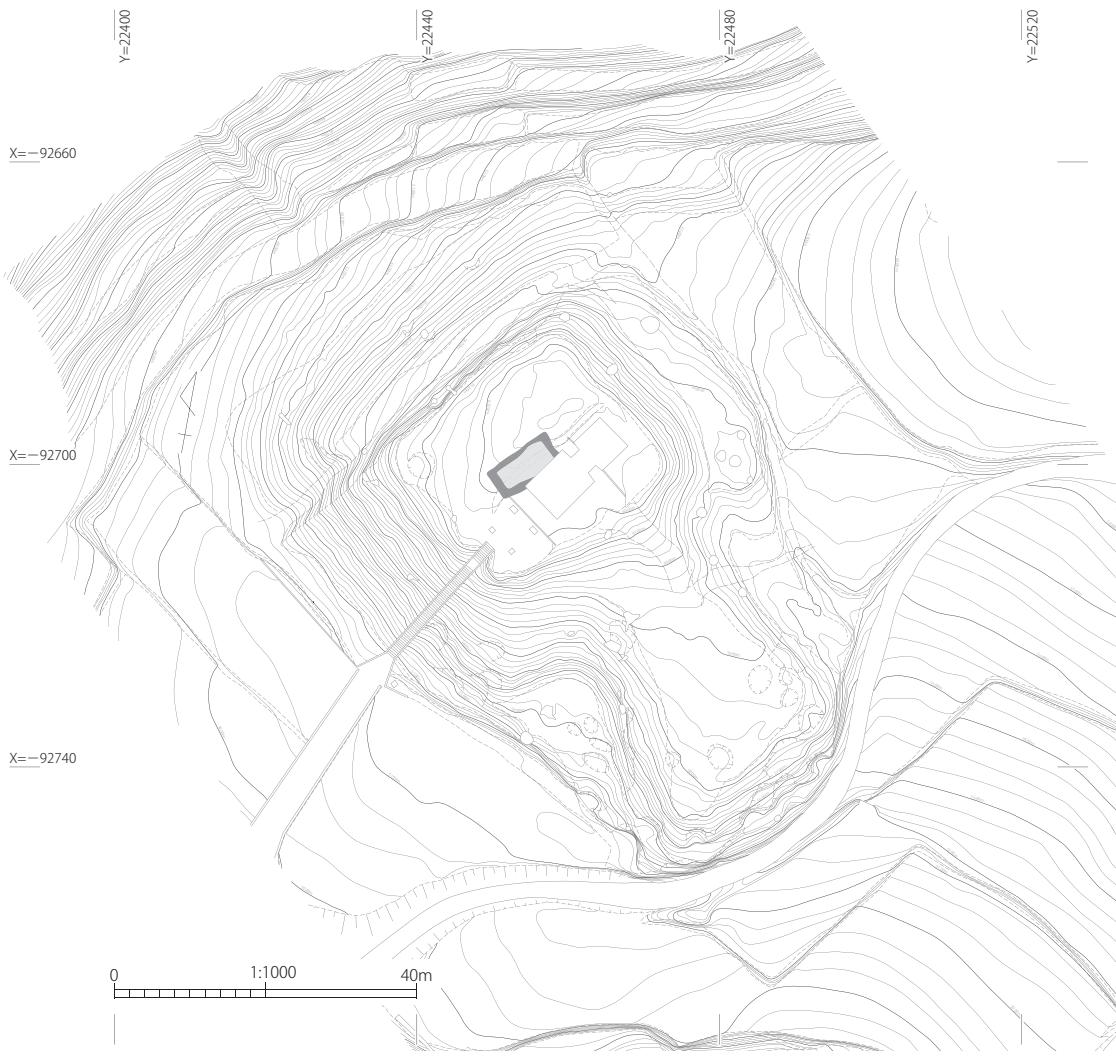
静岡県富士市増川に所在する国指定史跡浅間古墳は、全長 90.8m に復元される東海地方最大級の規模を有する前方後方墳である（佐藤 2018・2019）。これまで、静岡大学による墳丘測量調査が行われたのみで（静岡大学人文学部考古学研究室 1998）、本格的な発掘調査が行われたことがなく、築造時期や墳丘規模、埋葬施設は明らかとなっていない。

そのため、富士市教育委員会では、令和元年度、埋葬施設の有無や位置、形状を把握することを目的に、浅間古墳における地中レーダー探査を実施した。解析結果については前節に譲り、本節では、解析結果からどのような埋葬施設を想定することができるのかについて、まとめておくこととしたい。

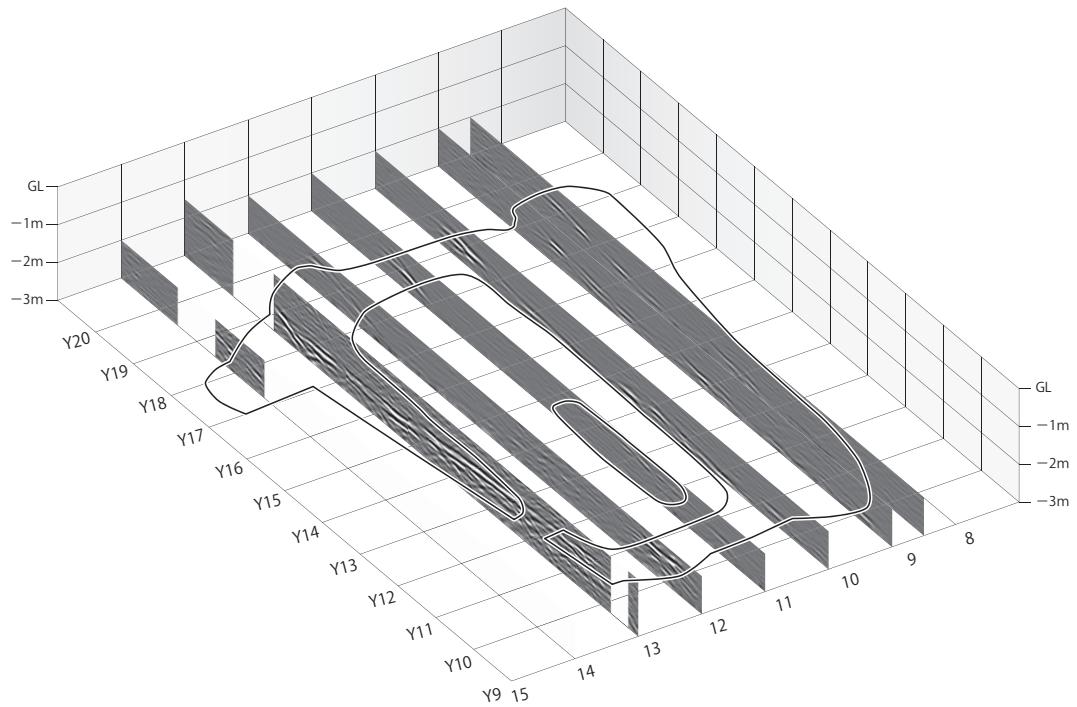
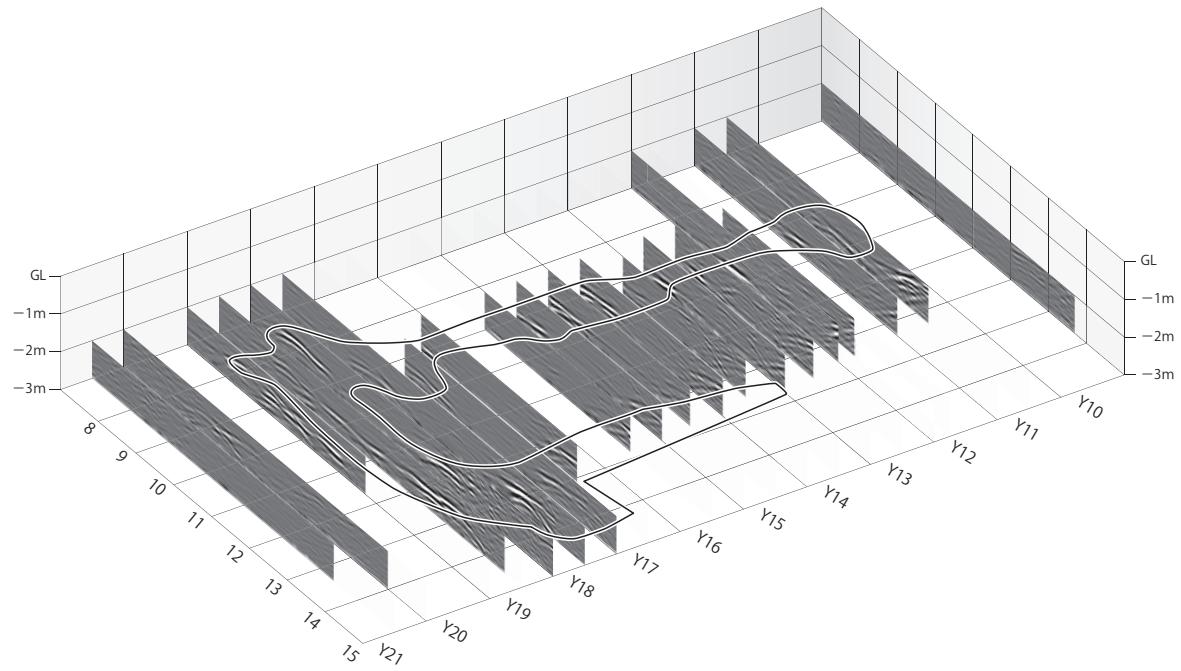
1 地中レーダー探査結果

地中レーダー探査の解析結果からは後方部墳頂平面において、古墳の主軸直交方向において、地表から 2.0 から 2.5m の深さで、長辺約 9.5m、短辺約 6.8m の範囲に隅丸方形状の異常反応が確認された。また、異常反応範囲の内側部分においては全く反応を示さない範囲が長辺約 7.4m、短辺 2.2m の範囲で認められた。また、前方部のほぼ中央においても、地表下 0.6m 付近で、5m × 3m の範囲に強い以上反応を示す部分が存在することから、なんらかの遺構の存在が指摘されている。

以上のことから、後方部主軸直交方向において、幅 1 ~ 2m 前後の天井部分が石材などではない（もしくは存在しない）、石材などを含む構造物に囲ま



第 216 図 埋葬施設の推定位置図



第217図 地中レーダ探査結果断面合成図

れた堅穴系の埋葬施設（想定される石室内法 長辺約7.4m、短辺2.2m）が存在することが想定されよう（注¹）。しかし、今回の地中レーダー探査の機器は地表下3m以上の深さの探査データを得ることができておらず、構造物の高さなどは完全には判明しておりおらず、現状では0.5mから1m程度の高さの異常反応が確認されているに過ぎない。

2 静岡県内における前期古墳の埋葬施設

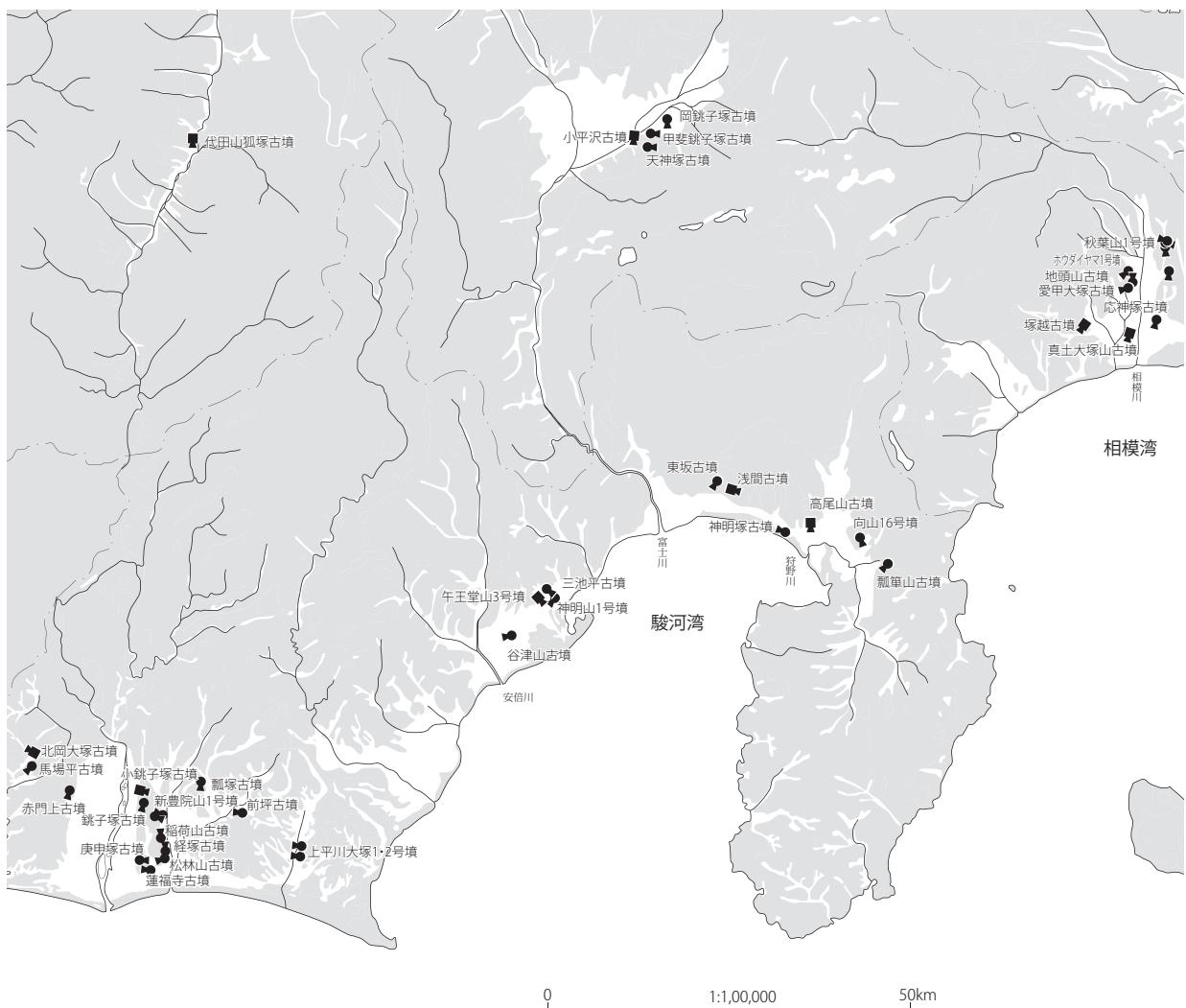
地中レーダー探査の結果から浅間古墳にどのような埋葬施設が想定できるのか、県内の前期古墳の埋葬施設についてみていくこととした。

県内の古墳の埋葬施設について体系的にまとめたものとして、静岡県内前方後円墳発掘調査事業の報告において中嶋郁夫のまとめたものがある（中嶋2001）。中嶋による堅穴系埋葬施設の分類を参考

に「堅穴式石室」と「粘土櫛・粘土床」、「木棺直葬」の3つに大別して整理すると以下のようになろう。

堅穴式石室 堅穴式石室については、石で壁体を構築しその後、天井石を設置するタイプと設置しないタイプに細別できる。天井石を設置する古墳として磐田市松林山古墳（後藤1939ほか）や静岡市三池平古墳（庵原村教委1961ほか）があげられ、明治時代の盗掘記録から堅穴式石室と想定されている静岡市谷津山古墳もそのタイプの可能性が指摘されている（柏原1886・大塚1990・伊藤2001）。また、近年、発見された三島市向山16号墳（三島市教委2015）もこのタイプに分類することができよう（注²）。

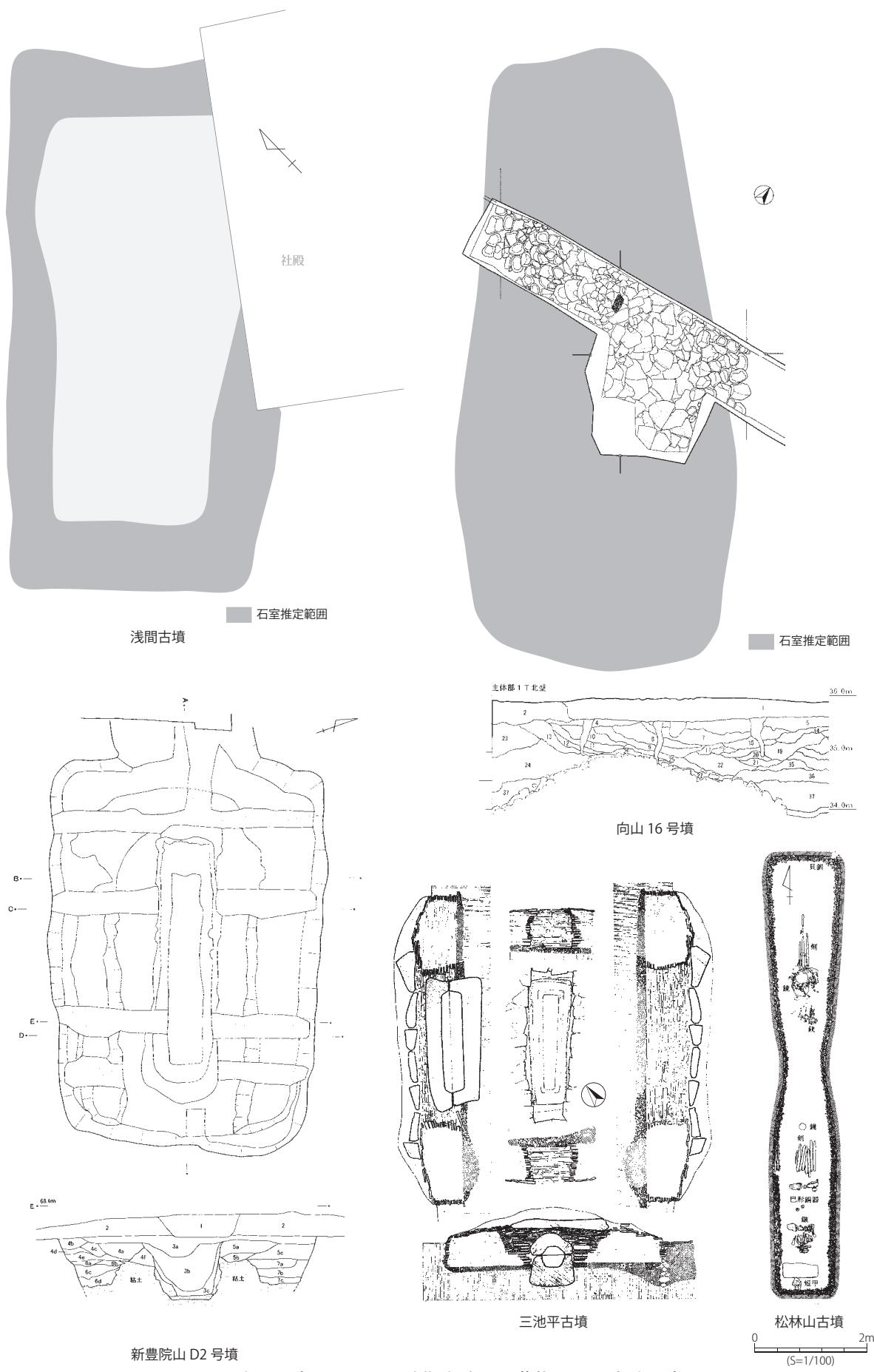
一方、天井石が設置されない古墳として磐田市新豊院山D2号墳（磐田市教委2006）が挙げられる。新豊院山D2号墳については、粘土と礫を混ぜた特殊な石室構築方法を採用している。以下、報告書の



第218図 駿河および周辺地域における前期古墳位置図

第25表 駿河・遠江において埋葬施設の明らかな前期古墳

古墳名	和田 編年	所在地	墳形	墳丘	埋葬施設	副葬品	外表・外部施設	文献
向山16号墳	三	三島市 谷田	前方後 円	全長 68.2m、後円部 径 40.7m (推定)	堅穴式石室(櫛)	不明 (未盗掘の可能性あり)		三島市教育委員会 2015『三島市埋蔵文化財発掘調査報告書 (補助事業版第1号)』
瓢箪山古墳	四	函南町 平井	前方後 円	全長 86.9m	粘土床?	不明		滝沢 誠 2019『伊豆瓢箪山古墳の研究』筑波大学人文社会学研究科歴史・人類学専攻
高尾山古墳	一	沼津市 東熊堂	前方後 方	全長 62.2m、後方部 長 30.8m、前方部長 31.4m	木棺直葬	鏡 1面 (「斜縁浮彫式獸帶鏡」) ヤリ 2、鉄鏡 31、ヤカシ 1、勾玉 1、棺内に大量の朱		沼津市教育委員会 2012『高尾山古墳発掘調査報告書』
神明塚古墳	二	沼津市 松長字 上ノ段	前方後 円	全長約 53m、後円部 径約 37m、前方部長 約 16m、前方部前端 幅約 23.5m	粘土櫛 (床)	不明	埴輪なし 葺石なし	沼津市教育委員会 1983『神明塚古墳』 沼津市教育委員会 2005『神明塚 (第2次) 発掘調査報告書』
浅間古墳	三	富士市 増川	前方後 方	全長約 90.8m、前方 部長 36.3m、後方部 高 11m、前方部高 7m【佐藤 2019】	堅穴式石室(櫛)	不明 もしくは、粘土 櫛か	埴輪なし 葺石あり	静岡大学人文学部考古学研究室 1998『静岡県富士市国指定史跡・浅 間古墳測量調査の成果』『静岡県の重要遺跡』静岡県教育委員会 佐藤祐樹 2019『国指定史跡 浅間古墳の再検討』富士市内遺跡発 掘調査報告書 -平成 29 年度-』富士市教育委員会
東坂古墳	四	富士市 比奈	前方後 円	全長約 60m、後円部径 30m、前方部幅約 13m	粘土床	七連弧紋鏡・四獸形鏡・勾玉・管玉・白玉・ガラ ス小玉・琴柱形石製品・石劍・鉄劍・大刀	埴輪なし 葺石なし	吉原市教育委員会 1958『吉原市の古墳』 富士市教育委員会 1998『富士市の埋蔵文化財 (古墳編)』
牛王堂山3号墳	二 ~ 三	静岡市 清水区 庵原町	前方後 方	全長 77.6m、後方 部 44.2m、前方部 長 33.4m、後方部高 5.3m、前方部高 2.5m	粘土櫛 (周辺を 木炭で被覆) (粘 土床か)	三角縁君宜高官獸文帶四神四獸鏡 1 (トレン チ調査のみ)	埴輪なし 葺石なし (埴輪敷石 帶)	清水市教育委員会 2001『牛王堂山 3 号墳確認調査報告書』 静岡市教育委員会 2020『静岡市内遺跡群発掘調査報告書 (平成 31 年度・令和元年度)』
三池平古墳	四	静岡市 清水区 原三池	前方後 円 (二 段)	全長 67m、後円部 径 41m、前方部長 26m、クビレ部幅 28m、前方部幅 35m 【清水市教委 2000】	割石小口積堅穴 式石室・剥抜式 割竹形石棺	【石棺蓋周辺】大刀 6、劍 1 【棺外北側】方形格規矩四神鏡 1・四獸文鏡 1・ 紡錘車形石製品 2・帆立貝形石製品 4・筒形銅 器 2 【棺外南側】鏡 2・銀 4・鉄斧 6・ヤリガナナ 8・ 鑿 2 (サボ 1)・鑿 1・刀子 2・大刀 4・劍 15・ 鉄鏡約 100 【棺内】ガラス勾玉 1・碧玉製管玉 63・ガラス 小玉 187・碧玉製車輪石 1・石劍 1	底部穿孔壺 埴輪片 葺石	庵原村教育委員会 1961『三池平古墳』 清水市教育委員会 1983『三池平古墳墳丘発掘調査報告書』 清水市教育委員会 2000『三池平古墳墳丘発掘調査報告書 (総括編)』
谷津山1号墳	四	静岡市 葵区春 日町	前方後 円 (三 段)	全長 115m、後円部 径 70m、前方部長 45m、後円部高 10m 以上、前方部高 6m	割石小口積堅穴 式石室?木棺?	鏡 6 面、鉄鏡 30 本余、鉄鏡形石製品 2 本、鐵 鏡、鉄劍【以上、明治 14 年記録】 石製品 3 (紡錘車形 1、石突形 1、鉄鏡 1)、銅 鏡 2 [東京国立博物館所蔵]	葺石あり	柏原学而 1886『静岡清水山にて古物を得たる事』『東京人類学会報 告』第 3 号 伊藤寿夫 2001『静岡市谷津山 1 号墳確認調査報告』『静岡県の前方 後円墳 -個別報告編-』静岡県教育委員会
上平川大塚古墳	四	菊川市 上平川 宇大塚	前方後 円	全長 13 間 (約 23.6m)【西郷 1921・ 静岡縣 1930】	粘土櫛? (櫛床 か)	鏡 3 (三角縁「天王日月」銘獸文帶神獸鏡、 三角縁「吾作」銘三神五獸鏡、四獸鏡)、勾玉 3、管玉 6、ガラス小玉数点?	埴輪なし 葺石あり	西郷藤八 1921『上平川大塚古墳明細書』(清書・補記 大谷宏治 2010『静岡県考古学研究』No.41・42) 後藤守一 1922『大塚古墳調査報告』『考古学雑誌』12 卷 9 号 大谷宏治 2010『上平川大塚古墳の研究』『静岡県考古学研究』 No.41・42
春林院古墳	二 ~ 三	掛川市 吉岡	円	直径 35m	粘土櫛 (割竹形 木棺)	なし。別の埋葬施設の可能性がある部分より 劍 1、ヤリガナナ 1、針一括 (5 程度)	葺石あり	内藤 晃編 1966『春林院古墳』春林院古墳調査委員会 掛川市教育委員会 2010『市内遺跡確認調査報告書』 滝沢誠編 2011『春林院古墳の研究』静岡大学人文学部考古学研究室
瓢塚古墳	三	掛川市 吉岡字 女高	前方後 円	全長 63m、後円部径 38m、後円部高 5m、 前方部幅 25.2m、前 方部高 3.5m	粘土櫛	鏡 2 (変形獸文鏡 2?)、勾玉 2、管玉、劍、 鉄鏡	壺形埴輪 葺石あり	静岡縣 1930『静岡縣史 第 1 卷』 内藤 晃編 1966『春林院古墳』春林院古墳調査委員会 掛川市教育委員会 1979『瓢塚古墳調査報告書』 滝沢誠編 2011『春林院古墳の研究』静岡大学人文学部考古学研究室
新豊院山2号墳 (新豊院山D2 号墳)	二	磐田市 向笠竹 之内	前方後 円	全長 28.0m、後円部 径 17 ~ 16m、後円部 高 5.7m、前方部 長 10.6m	堅穴式石室	鏡 2 (三角縁「吾作」銘四神四獸鏡、素文鏡)、 劍 5、大刀 1、短刀 1、銅鏡 28、鉄鏡 20、刀子 ? 1	埴輪なし 葺石なし	磐田市教育委員会 1982『新豊院山古墳群』 磐田市教育委員会 2000『新豊院山古墳群 (D 地点の発掘調査)』
経塚古墳 (連城寺8号墳)	三	磐田市 新貝小 犬間添	前方後 円	全長 50 間 (約 91m)、後円部径 30 間 (約 55m)【西郷 1925】	不明 三貴匁 (約 11kg) の朱出土 【西郷 1925】	鏡 1 (「日月日日」銘三角縁唐草文帶四神四獸 鏡)、大刀 2		西郷藤八 1925『遠江国新貝経塚古墳』『考古学雑誌』16-9 柴田 稔 1986『磐田原古墳群の形成について』『古代を考える』41 磐田市教育委員会 1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書 -磐田原 台地東南部における首長墓の調査-』
新貝17号墳 (連城寺5号墳)	四	磐田市 新貝小 犬間添	円	直径 30m、高さ 4.9m	【第2主体部】 木棺直葬 【第1主体部】 木棺直葬	【第2主体部】(櫛外)劍 1、大刀 3 (櫛内) 鏡 2 (変 形神獸鏡 2)、管玉 30、勾玉 2、堅櫛、劍 3、 大刀 1、斧 5、鎌 1、刀子 2 【第1主体部】(墓坑上面) 土師器高 4、土 師器壇	埴輪なし 葺石なし	磐田市教育委員会 1972『磐田市新貝 17 号墳・18 号墳 城之崎丸山 古墳 調査概報』 磐田市教育委員会 1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書 -磐田原 台地東南部における首長墓の調査-』
松林山古墳	四	磐田市 鎌田	前方後 円	全長 107m、後円部 径 (3 段) 65.6m、 高さ 10m、前方部長 (2 段) 40.5m、前 方後部前端幅 48m	堅穴式石室(櫛) 天井を粘土で被 覆	鏡 4 (「吾作」銘三角縁神獸鏡、雲雷紋連弧 紋鏡、連弧紋鏡、做製四獸鏡)、勾玉 2、管玉 79、琴柱形石製品 1、石劍 2、貝劍 3、大刀 3 ~、劍 14 ~、鉢 13、短甲 1、鉄鏡 1 塊、銅鏡 80、ユキ?、巴形銅器 3、刀子 4、ヤリガナナ 6、鎌 6、鑿 10 数、斧 17、鏡 1、砥石 2 前方部: 鏡 1 (四獸鏡)	円筒埴輪	後藤守一ほか 1939『静岡縣磐田郡 松林山古墳発掘調査報告』御厨 村郷土教育研究会 静岡県教育委員会 1965『松林山古墳』『東海道新幹線静岡県内工事 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 磐田市教育委員会 1992『平成元年度 松林山古墳発掘調査報告書』 磐田市教育委員会 1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書 -磐田原 台地東南部における首長墓の調査-』 斎方正樹 2020『松林山古墳の埴輪と副葬品の築造時期』『埴輪論叢』第 10 号
鏡子塚古墳	四	磐田市 寺谷丁 子塚	前方後 円	全長 112m、後円部 径 63m、後円部高 9.6m、前方部幅 25m	礫と粘土を含む (乱掘)	鏡 1 (三角縁三神三獸鏡)、銅鏡、巴形銅器	埴輪不明 葺石あり	西郷藤八 1926『遠江国寺谷鏡子塚古墳調査報告』『考古学雑誌』15-10 静岡県 1990『県史資料編 2 考古二』 磐田市 1992『磐田市史 史料編 I 考古・古代・中世』 磐田市 1993『磐田市史 通史編上巻 原始・古代・中世』
赤門上古墳	三	浜松市 北区内 野	前方後 円	全長 56.3m、後円部 径 36.2m、後円部高 4.9m、	木棺直葬	鏡 1 (三角縁四神四獸鏡)、管玉 6、劍 1、大刀 1、 鉄鏡 11、銅鏡 29、刀子 1、斧 2、鎌 1、ヤリ ガナナ 2	埴輪なし 葺石なし	浜北市教育委員会 1966『赤門上古墳の実態』『浜北市史』資料編 原始・古代・ 中世 浜北市
椎現平山7号墳	四	浜松市 北区内 野台	円	直径 25m、高さ 3.4m	木棺直葬	銅鏡 21、鉄鏡 8、ヤリ 1、鎌 1、斧 1		浜北市教育委員会 1993『浜北市史 古墳群』 大谷宏治 2004『赤門上古墳の実態』『浜北市史』資料編 原始・古代・ 中世 浜北市
馬場平古墳	四	浜松市 北区引 佐町	前方後 円	全長 47.5m、後円部 径 33m、後円部高 4.6m、前方部幅 15m	粘土櫛 (床)	鏡 2 (画文帶神獸鏡、五連弧文鏡)、碧玉製管 玉、劍 2+、銅鏡 5、鉄鏡 3、巴形石製品、赤 色顔料	埴輪なし 葺石なし	引佐町教育委員会 1983『馬場平古墳発掘調査報告書』引佐町の古墳 文化 III 静岡県 1990『県史資料編 2 考古二』

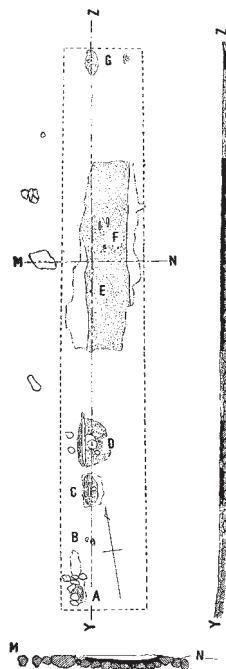


第219図 駿河・遠江における前期古墳の埋葬施設（竪穴式石室）

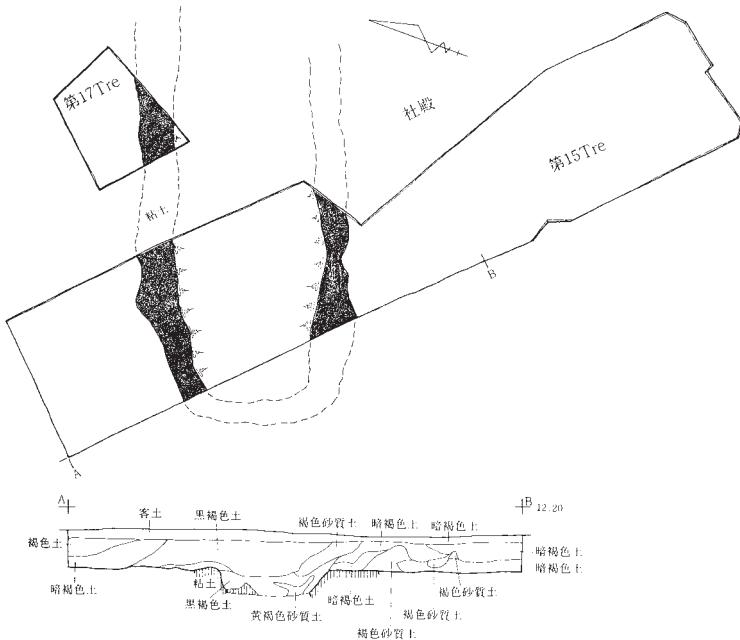
記載をまとめると以下のようになる。

新豊院山D2号墳の石室構築はまず、墓壇底面に粘土を貼り付け、その上面に直径10cm程度の円礫を平坦に敷き、さらに礫の上面及び棺設置部分以外の周囲に粘土を貼って粘土床のような構造を作り出す。石室壁体も5~10cm程度の礫を高さ40cm程度積み上げ、礫の覆うように粘土を貼り付ける。そ

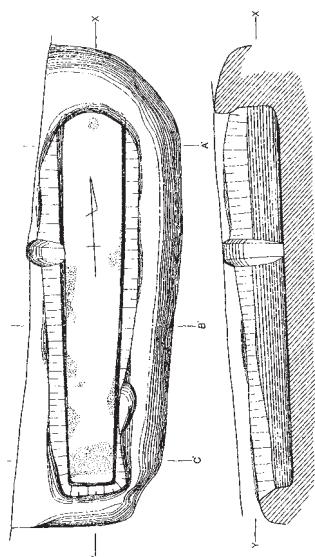
の後、棺を設置しさらに壁体を構築するが使用する石材は下部より大きく人頭大の礫が積み上げられる。この上部の壁体構築時には粘土の使用は著しく少ない。その後、天井石の設置や上面を粘土で被覆した痕跡は確認されず、木材などの有機質の天井が存在した可能性が指摘されている。石室規模は、長さ約5.0m、床面幅0.6mから0.7m程度、高さ0.7m



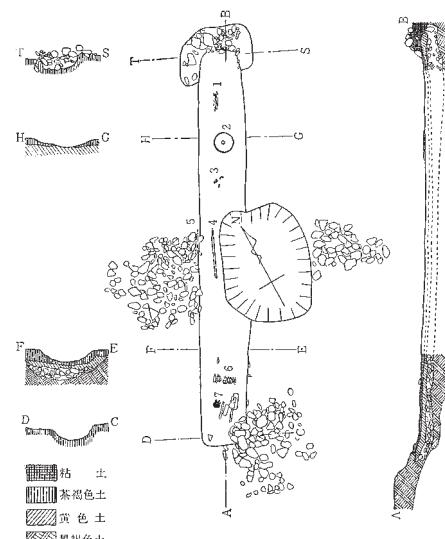
東坂古墳



神明塚古墳



馬場平古墳



赤門上古墳

0
(S=1/100)
2m

第220図 駿河・遠江における前期古墳の埋葬施設（粘土床）

を測り、断面は上部に行くほど広がっていることから上端幅は1.0mから1.2mを測る。

粘土櫛・粘土床 棺全体を粘土で被覆する構造（粘土櫛）と棺の一部を粘土で被覆する構造（粘土床）に大別され、後者はその範囲の違いにより、「a 床面及び周縁を被覆する構造」、「b 周縁のみを被覆する構造」、「c 小口のみを被覆する構造」、「d 上面のみを被覆する構造」に細分されている（中嶋2001）。

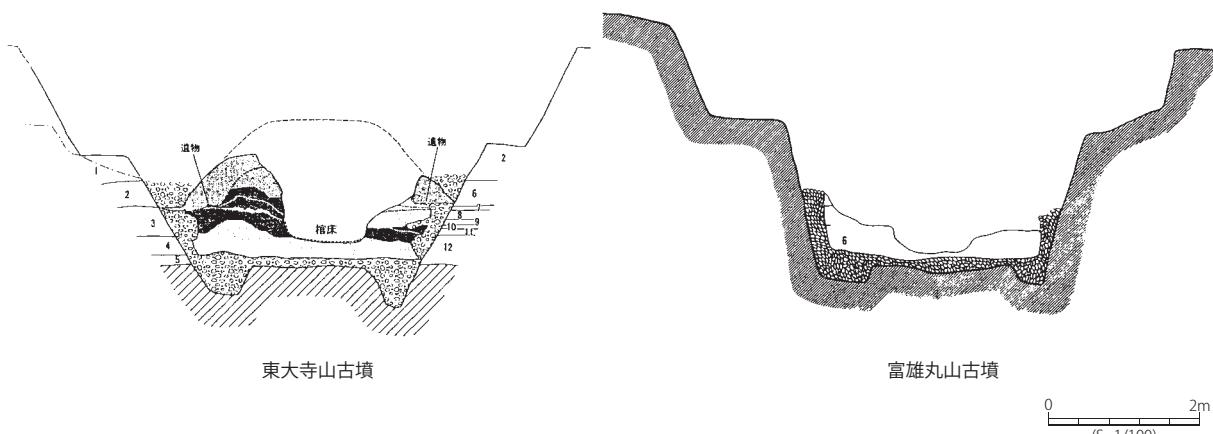
粘土櫛とされる浜松市馬場平古墳の埋葬施設について中嶋は粘土床の可能性を指摘しており、県内の前期古墳において確実に棺全体を粘土で被覆する埋葬施設を有する古墳はない。粘土床とされる古墳は沼津市神明塚古墳（沼津市教委1983・2005）、富士市東坂古墳（吉原市教委1958）、静岡市午王堂山1号墳・3号墳（清水市教委2001）、掛川市春林院古墳（内藤編1966・掛川市教委2010・滝沢編2011）、掛川市瓢塚古墳（掛川市教委1979・滝沢編2011）などが該当するが、部分的な検出や残存状況がよくない調査例が多い。

木棺直葬 木棺直葬が確定している前期古墳としては沼津市高尾山古墳（沼津市教委2012）、磐田市新貝17号墳（蓮城寺5号墳）（磐田市教委1999）、浜松市赤門上古墳（浜北市教委1966）、浜松市権現平7号墳（浜北市教委1993）のほか、焼津市藤枝市域の小規模古墳の埋葬施設に多く採用されている。

3 想定される浅間古墳の埋葬施設

浅間古墳でまず想定されるのが堅穴式石室である。ただし、天井に該当する部分について石材の反応が認められないことから、有機質もしくは天井石が持ち去られていることが前提となる。ただし、地中レーダーでは埋葬施設については内法長辺7.4m、短辺2.2mが想定されているが、石室幅が2mを超える堅穴式石室というものは前期古墳の中でも最古級であるホケノ山古墳（石櫛内法長さ約6.7m、幅2.7～2.8m）（奈良県立橿原考古学研究所2008）の礫櫛構造を除いて全国的にもほぼ見られない規模であり、同じく礫櫛構造の埋葬施設を有する松本市弘法山古墳でも長さ約5m、幅1.3m程度である（松本市教委1978）。静岡県内でも構造が明らかなものでも静岡市三池平古墳の幅0.7～0.8m（庵原村教委1961）、磐田市松林山古墳の幅1.05～1.3m（中央部0.75m）、また、粘土と礫を混在させる前述の磐田市新豊院山D2号墳で幅0.6～0.7mである。そのため、現段階で浅間古墳の埋葬施設にホケノ山古墳や弘法山古墳のような礫櫛構造か幅の極端に広い構造の堅穴式石室が存在する可能性が指摘されよう。

一方で、今回得られた地中レーダー結果から、駿河・遠江に多い粘土櫛や粘土床などの粘土を多用した埋葬施設が想定されないのか検討すると天理市東大寺山古墳の粘土櫛の構築手順について考察した高橋克壽の論考が参考になる（高橋2010）。



第221図 粘土櫛下部における石材使用（高橋2010）

「まず、後円部の中央に南北に長い平面台形の墓壙を掘り込む。墓壙上面の規模は南北約12m、幅は北が約8m、南が約6.5m、深さ約3.7mで、底は地山の標高にほぼ一致している。東西両壁には段を設け、墓壙底面の長さは約7.9m、幅は中央部で約2.5mを測る。この墓壙底の四周に狭い溝をめぐらすことで、木棺の下に相当する部分をベッド状に用意するが（この部分を例にならって基台と呼ぶ）、その溝を完全に埋め尽くすのに続いて、基台を覆うように礫を敷き詰める。そして、いったん平坦な床面を形成した後、あらためて棺床粘土を幅広く用意する。この棺床上に長さ7m内外の割竹形などの木棺の身が安置される」とする（高橋2010）。

以上の考察から、粘土櫛の粘土部分については地中レーダーでは異常反応として現れてこないものと想定され、浅間古墳の地中レーダー探査で石材とされる反応はこの粘土櫛内部の棺を設置する「基台」を覆うように敷き詰められる礫の可能性も指摘できよう。

おわりに

以上、令和元年度に実施した富士市浅間古墳の地中レーダー探査結果から想定される埋葬施設について現段階での所見をまとめた。結論的には、堅穴式石室の可能性が高いものの、粘土櫛や粘土床などの可能性も排除できず、確定的なことは言えない状況である。

しかし、これまで、測量以外の考古学的調査が行われてこなかった浅間古墳に対して、非破壊ながら調査のメスが入れられ、埋葬施設の存在や位置を推定できるまでになったことは、大きな成果といえる。しかも、長辺約9.5m、短辺約6.8mの範囲に石材の反応が認められ、内法長辺約7.4m、短辺2.2mという長大な埋葬施設の存在が明らかとなつたことは、駿河はもちろん、東日本において倭王権と地域連合体との関係性を考える際に重要な成果といえよう。

令和2年度には、UAVを使用した空中レーザー測量を実施しており、築造規格などや立地、視認性など浅間古墳が持つ様々な要素に対して検討を加えていくことしたい。

注

- (1) 第216・219図において図示した浅間古墳の埋葬施設検出位置は、地中レーダー探査実施時に、波形の乱れが現地で確認された場所をトータルステーションで計測したものである。
- (2) 向山16号墳において実施した地中レーダー探査結果に基づく石室想定範囲（第219図）については、三島市教育委員会より提供を頂き図示した。

参考文献

- 庵原村教育委員会 1961『三池平古墳』
 伊藤寿夫 2001『静岡市谷津山1号墳確認調査報告』『静岡県の前方後円墳一箇別報告編一』静岡県教育委員会
 磐田市教育委員会 1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書一磐田原台地東南部における首長墓の調査一』
 磐田市教育委員会 2006『新豊院山古墳群 D地点の発掘調査』
 大塚初重 1990『袖木山神古墳（谷津山1号墳）』『静岡県史資料編2考古二』静岡県
 柏原学而 1886『静岡清水山にて古物を得たる事』『東京人類学会報告』第3号
 掛川市教育委員会 1981『各和金塚古墳測量調査報告書』
 佐藤祐樹 2018『駿河・遠江における古墳出現期の様相—浮島ヶ原における首長系譜を中心にして—』『東海地方における古墳出現期の様相2』考古学研究会東海例会
 佐藤祐樹 2019『国指定史跡浅間古墳の再検討』『富士市内遺跡発掘調査報告書—平成29年度—』富士市教育委員会
 静岡大学人文学部考古学研究室 1998『静岡県富士市 国指定史跡・浅間古墳測量調査の成果』『静岡県の重要遺跡』（静岡県内重要遺跡詳細分布調査報告書）静岡県教育委員会
 高橋克壽 2010『東大寺山古墳の粘土櫛』『東大寺山古墳の研究—初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究—』金閥恕編 東大寺山古墳研究会・天理大学・天理大学付属天理参考館
 滝沢 誠編 2011『春林院古墳の研究』静岡大学人文学部考古学研究室
 内藤 晃編 1966『春林院古墳』春林院古墳調査委員会
 中嶋郁夫 2001『主体部』『静岡県の前方後円墳—総括編一』（静岡県内前方後円墳発掘調査等事業報告書その1）静岡県教育委員会
 奈良県立橿原考古学研究所 2008『ホケノ山古墳の研究』
 沼津市教育委員会 1983『神明塚古墳』
 沼津市教育委員会 2005『神明塚（第2次）発掘調査報告書』
 沼津市教育委員会 2012『高尾山古墳発掘調査報告書』
 浜北市教育委員会 1966『遠江赤門上古墳』
 松本市教育委員会 1978『弘法山古墳』
 三島市教育委員会 2015『三島市埋蔵文化財発掘調査報告書（補助事業版第1号）』
 吉原市教育委員会 1958『吉原市の古墳』